

## 1 分科会 研究課題「教育環境整備に関する課題」

### 研究主題「地域とともに教育力の向上を図るための教頭のかかわりについて」

宮崎支会 1 班

#### 1 主題設定の理由

国の教育振興基本計画の目標の一つに、「学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上」が挙げられ、三位一体となった学校づくりの重要性について述べられている。

また、宮崎県教育振興基本計画の目標の中に、「教育効果高める体制や環境の整備・充実」が挙げられている。地域の人的・物的資源を活用した社会との連携等により実践的な防災教育を推進することや学校運営協議会制度等、学校が地域とのつながりを推進していくことが示されている。

さらに、第2次宮崎市教育ビジョンの目標においては、「地域・家庭・学校が連携した教育の充実」の施策の中で、防災教育やキャリア教育を充実させるためにも、家庭及び地域の教育力の充実が挙げられ、より具体的に地域とともに教育力を向上させることについて述べられている。

上述の内容から、学校教育において、学校と家庭を含めた地域全体で同じ方向性をもって教育力の向上を目指していくことは、今後の学校教育にとって必須条件であるといえる。そして、学校と地域を結ぶ重要な存在として、教頭の役割が大きくなっているといえる。

これらのことから、地域とともに教育力の向上を図るための教頭のかかわりについて明確にし、学校教育を円滑に進めていけるようにすることで、未来に活躍できる子どもを育てようと考え本主題を設定した。

#### 2 研究のねらい

学校と地域が協働して行う活動について地理的、人材的な特徴で分類し、教頭のかかわりを明確にすることで、教頭が各地域で関係組織と円滑にかかわることができるようにする。

#### 3 研究の概要

- (1) 地域と協働して行う活動と教頭のかかわり
  - ① 地理的な特性(学校間の連携を含む)のある活動と、教頭のかかわりについて
  - ② 人材的な特性(各関係機関等を含む)のある活動と教頭のかかわりについて

#### 4 研究の実際

- (1) 地域とともに行う教育活動
  - ① 地理的な特性(学校間の連携を含む)のある活動について

##### ア 海が近い

海が近い学校の中には、水泳の学習が始まる前に、海水浴場の職員の方々が、職員と児童に向けて心肺蘇生法を中心とした命を守るための講座を行う。1年生の時から学んでいるので救助や命に関する意識を高められている。

##### イ 川が近く急傾斜がある

大雨等で、避難命令が出た場合は、学校が最初に避難所となる。そこで、市役所との連携を密にしている。「避難所開設要綱」について互いの考えをすり合わせながら作成している。また、近隣の大学とかかわりを持ち、専門的な知識を基に、防災に対する意識の高揚を図ったり、訓練等の改善を行ったりしている。さらに、近隣で地理的な特性が似ている学校と、連携を図り「地域防災訓練」として避難訓練を実施している。

##### ウ 自然が多く残されている

虫が飛び交う環境が身近にあり、観察等が容易なため、総合的な学習の時間の中で計画的に学習し、動植物の様子について様々な関係機関の方々から詳しく学ぶ。また、自然を美しくきれいに保つため

の意義について学ぶことができ、実践的な環境教育を行うことができる。

#### 【教頭のかかわり】

- 年度当初から活動にかかわる職員や地域の方々から情報を得ている。また、職員等が替わっていくので、講座等を開くための打ち合わせを行っている。
- 市役所と連携を密にして作成した「避難所開設要領」をもとに行動できるように、互いの職員で、要領について周知を図っている。
- 実際に活動する学年と連携し、教頭が今までの活動の様子や計画等について提示し、安全に円滑に活動できるよう図っている。

#### ② 人材的な特性 (各関係機関等を含む) のある活動について

##### ア 地域の伝統芸能の指導

小・中合同で、地域に伝わる「臼太鼓踊り」を披露する機会がある。練習では、保存会が中心となり指導を行っており、地域の伝統芸能について深めることができた。

##### イ 地域の自然についての説明

遠足で地域の散策を行う際に、地域の有志の方2～3人が各グループに付き、辺りの自然についての説明を行い、地域についての知識を深めている。また、地域の自然の中にある木の葉を使った作品作りや蝶を飛来させるための環境づくりなど、地域の講師による学習内容の充実を図っている。

##### ウ キャリア教育の講師

地域出身のスポーツ等で活躍している方による講話や県外からの移住者の方の講和（当該地域を選んだ理由、仕事に対する考え等）を実施し、郷土愛が高められている。

##### エ 教科等の指導協力

社会福祉協議会と協力して地域の方に10名ほど来校していただく。生活科では、子どもたちが地域の昔の様子や祭りについてインタビューをした。総合的な学習の時間では、子どもたちと一緒に地域を散策し、防災マップを作成している。

#### 【教頭のかかわり】

- まちづくり推進委員会の方と打ち合わせ、募集のチラシ配付、参加者の集計、連絡調整等を行う。
- 計画立案し、案内状作成・発送を行う。受付名簿、レジユメ、資料などを作成し、事後アンケートのまとめを行い、地域とのつながりを持続できるようにしている。
- 地域の声を職員に伝え、職員に役目を割り振ったり、学年につないだりしている。

#### 【①・②共通の教頭のかかわり】

- 校長の学校経営方針や地域の期待・願いを十分に把握し、目標を達成できるような、方向性を設定する。
- 上記をもとに、係の職員への指導、助言（例年どおりではなく、今年度の学校経営ビジョンを基に）を行い、日程調整等を行う。

## 4 今後の課題

- (1) 教頭がかかわりすぎることによって、地域の自主性が薄れたり、活動そのものが目的となったりすることがある。活動の目的を明確にし、職員や地域と共通理解したうえで、教頭がかかわっていく必要がある。
- (2) 地域の思いを大切にしながらも、校長の思いを受けて具現化することを念頭において地域と学校を連携させなくてはならない。教頭がそれらについてバランスよく調整していく必要がある。
- (3) 地域とともに教育力の向上を図るためには地域に啓発することが必要である。また、地域力が低下している場合、教頭としてどのような手立てが必要かについて考えていかなければならない。
- (4) 地域や各関係機関と教頭のかかわりの在り方等について、確実に引き継いでいくために、実用的な引き継ぎ書の在り方について明確に

していく必要がある。